

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470101456		
法人名	社会福祉法人 一志会		
事業所名	清静園指定認知症対応型共同生活介護事業所		
所在地	大分市大字竹中5274番地の1		
自己評価作成日	2019年10月9日	評価結果市町村受理日	令和2年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和元年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①経営理念の達成に向けて、ISO品質マネジメントシステムを導入し、手順書に準じて統一されたサービスを提供し、PDCAサイクルによるサービスの質の向上に向けた取組を行っている。
 ②運営推進会議に大分市、民生委員・地域包括支援センター職員の参加を要請し、地域に開かれたサービスとすることでサービスの質の確保を図っている。
 ③法人内の施設を利用し、散歩、行事参加等を行い、顧客の気分転換を図っている。
 ④顧客・家族からの苦情・要望や介護事故。運営推進会議に関して、ホームページや広報誌にて情報開示を行い、運営の透明性を図っている。
 ⑤家庭的雰囲気の中、顧客1人1人の生活スタイルを大切にしたいケアを努めている。⑥地域住民との触れ合いを大切に、地域に開かれた事業所作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域の小学校や中学校、公民館との交流がみられ、災害訓練なども共に取り組んでいる。
 ・法人理念がしっかりと支援に反映され、一人ひとりの思いを大切に、寄り添うケアが実践されてる。
 ・利用者の嗜好調査を基に献立し、食事作りが同じ空間で、家庭的な雰囲気の中で行われている。
 ・法人の職員を育てる仕組みがあり、職員は専門的な知識に基づき、適した認知症ケアがなされていた。
 ・部所間での支援体制もあり、法人内で連携し、また、ホーム内でも小さなことでも申し送りして利用者本位の支援につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者・地域社会における対象者及び家族等を「顧客」と認識し、経営理念にて「顧客本位のサービス提供」を掲げている。又、その経営理念を達成するために、経営方針を明確にしている。	「顧客の思いに寄り添う支援」を理念として、目標達成のためのシートを活用し振り返りを行い、支援の中で実践している。利用者本位の思いに沿って、心地よい場所や思い思いの生活を送る支援につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	竹中校区運動会・竹中校区盆踊り・竹中校区公民館まつり・竹中校区文化祭等に参加し、地域交流を図っている。また、竹中小学校に毎年雑巾の寄贈をしている。法人主催の盆踊りには地域の方が参加して下さっている。	地域の民生委員の声掛けで、地域のイベントに参加、文化祭や祭り・災害時の避難訓練など交流を行っている。法人内の特養やケアマンションと連携して、小地域交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページ・パンフレットに経営理念。経営方針を掲載し、運営推進会議の議事録をホームページにて情報公開している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、顧客サービスに対しての取組状況について討議し、顧客サービス向上に向けての改善の機会としている。民生委員等の地域に密着している方をメンバーとしている。	定期的開催し、活動内容や利用者状況、ヒヤリハットなどを報告、市役所職員のアドバイスや地域の代表者からの情報提供があり交流へとつながっている。家族も意見を出して、運営の改善の機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの情報交換、運営推進会議には都合のつく際に大分市職員が参加し、連携を図っている。	市役所長寿福祉課や包括支援センターの職員と話しやすい関係が出来ており、小さなことでも相談してアドバイスを受け、サービスの質の向上につながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	顧客虐待・身体拘束廃止規則を遵守している。虐待・身体拘束廃止検討会議の毎月の開催、年2回の虐待・身体拘束廃止研修会の参加、他部署からの虐待・身体拘束に関する内部監査の受審を行い、絶対にしてはならない認識として取り組んでいる。	毎月内部監査のシステムがあり、職員交互に確認し合い意識付け、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。学習会や事例検討などを通して現場支援を振り返り、言葉遣いやスピーチロックなどにも注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	顧客虐待・身体拘束廃止規則を遵守し、年2回の虐待・身体拘束研修に参加している。尚、毎月の会議にて虐待がないか確認を行うとともに、あった場合の迅速な対応についても、規則や手順書にてマニュアル化されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を必要とする事例が発生した場合に、顧客や家族に情報提供できるよう書類やパンフレット等を準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	顧客入居契約管理手順書に準じて顧客入居に関しての説明責任を果たし、顧客退居管理手順書に準じて顧客退居事務手続きを行い、問題の未然発生防止と事業運営の円滑な遂行を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	顧客、家族からの要望や苦情について福祉サービス相談委員会にて報告を行っている。第3者委員が巡回し顧客の意見の聞き取りを行っている。月1回顧客家族には要望の聞き取りを行っている。	家族が気軽に職員へ思いを伝えており、運営推進会議に出席して率直な意見も出している。利用者は話しやすい職員へ心の内を伝えて、職員間で共有し対応している。第3者委員が定期的に巡回し、意見を聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見や提案は管理者に相談している。部署会議や、運営推進会議等での意見や提案を献意や管理の上で活かして行けるよう努力している。	日ごろより管理者と話しやすい関係が出来ており、職員の意見や提案をケアに反映し、職員が働きやすくなるよう勤務体制を見直している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	規則規定に準じ昇給、資格手当、正規職員への登用制度を整備。介護職員の処遇改善に関する夜勤手当の見直しを実施している。また、福利厚生面にてリフレッシュ事業を展開し、やりがいのある環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育及び法人内部研修を開催し教育を行っている。また、継続的なOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他部署開催の会議・委員会等に参加し、情報交換を行うことで、サービスの質の向上を図っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に顧客本人との面談を行い入所前調査を行う際のインテーク、サービス計画立案時には顧客のニーズの発掘を徹底し要望等の聞き取りを行っていくことで、顧客本人の安心確保を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前及び入居契約時の聞き取り時にご家族のニーズの把握を行うとともに、サービス計画立案時においても常にニーズの把握を行っている。また、面会時においても信頼関係が構築できるようコミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報収集、初回面談時に本人及びご家族へ必要としているニーズの把握を行っており、そのニーズに準じたサービス計画が立案できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	顧客と一緒に食事をし、共通の話題で団欒したり、おやつ作り、レクリエーション、外出行事等を企画し、喜怒哀楽を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対する顧客の状態報告を積極的に行っている。定期的に家族ニーズを聴取している。誕生日会等の行事や家族交流会を開催することで支えていく環境作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に入居中の家族や知人との面会、郵便物の代読、電話の援助を行ったりして、なじみの場所と環境が途切れないようにしている。	美容院が施設内にあり、定期的に活用し馴染みの関係が構築されている。また訪問歯科が定期的に来ることで、医師と気軽に話せて楽しんでいる。地域の方やなじみの方が高齢化してきているが、新しい馴染みの関係が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	顧客同士の関係を日常生活の中で把握し、食事や余暇時間の場所等に配慮している。料理、裁縫、レクリエーション等の中で顧客が得意な分野で活躍できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本法人の総合的な介護支援ができる体制を最大限に活用し、退居先の関係者に対し、顧客の状況・習慣・好み・これまでのケアの工夫等情報提供できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族からの意向の聞き取り、日々のケアの中で知り得た思いや意向は、24時間シートに反映し、職員間で共有している。会議等で顧客の視点にたった対応を検討している。	24時間シートやアセスメントシートを活用して、その人らしい思いや意向を把握している。職員は言葉で表現しにくい方の気持ちや要望をキャッチしており、日々の支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	経営理念にて「顧客本位のサービス提供」を掲げて、職員1人1人が実現に向けて取り組んでいる。入居時に顧客個々の生活歴を聞き取り、その顧客らしい生活ができるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	顧客の日々の暮らしは、申し送りノートに随時記載し、現状の把握に努めた上で、会議にて顧客の有する能力を勘案した対応を検討し、サービス計画の策定につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	顧客サービス計画策定管理手順書に準じて、モニタリング結果を踏まえ、顧客、家族からの要望、状態の変化に即したサービス計画の立案に努めている。	毎月ケアプランに沿った状況の確認を行って入力し、状況に応じてプラン変更を行っている。本人・家族・職員の思いや意見を反映してプラン作成し、ケアに活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	顧客の日々の様子は、申し送りノートに随時記載し、ケア入力システムに入力し情報共有している。その記録を基に、モニタリングを実施し、サービス計画の策定を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本法人の総合的な支援の出来る多機能性を活かした体制を活用している。法人内の美容室利用、他事業所開催の行事参加、看護職員による医療的処置等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターとの協働、運営推進会議等での情報提供依頼を行っていくことで、地域資源を把握し、必要な地域資源が活用できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	顧客・家族の希望する、なじみの医師による継続的な医療が受けられるよう、かかりつけ医の変更は行っていない。往診可能な医療機関もあり、かかりつけ医と事業所の関係を築いている。	馴染みのかかりつけ医に継続して受診している方が多く、往診もあり、日ごろの生活状況も医師が把握している。受診は多くが家族が同行しているが、家族・医療機関と連携した取り組みがされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時等に法人内の看護職員に指示を仰ぐことが可能。かかりつけ医によっては月に2回の往診がある。その他カテーテル交換などが必要な際の往診もみられている。日常の顧客の健康状態等の情報提供を医師と家族に密に行っているとともに、特変時にはいつでも連携できる体制を維持している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も顧客の面会を定期的に行い、本人の状態把握に努めるとともに合わせて家族からの情報収集を行っている。医療機関に関しては、ソーシャルワーカー等との連携を常に図っており、迅速な退院調整を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「延命治療に対する同意書」にて家族の意向を確認している。事業所での対応可能な事の説明を都度家族に説明し、どのような方針で終末期を迎えるか家族と協議している。	延命治療や救急時の対応について入居時に話し合い、同意書で確認している。状況の変化があった時には再度どのように過ごしたいかを話し合っている。急変事も地域の医師と連携している。重度化に対しては、法人内で対応も可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応及び事故発生時の対応に関しては、手順書に示されており、発生時の対応が迅速にできるようOJTにて教育を行っている。また、法人が開催する事故防止対策委員会に出席し、事例の水平展開等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大規模災害、災害時対応に関して、訓練を継続的に実施するとともに、顧客も参加している。民生員・家族に関しても参加を依頼している。また、近隣住民の「福祉避難所」となっており、非常食も備蓄されている。また、自主避難に関しての受け入れも行っている。	地域の方々と共に大規模災害の訓練を実施、事業所としても訓練を行っている。防災意識が強く、マニュアルも策定して、近年の災害を受け見直しの計画もされている。事業所内の家具など災害防止の対応がみられ、備蓄も地域分を含め用意している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法を遵守している。部署会議にて人権尊重とプライバシー保護について確認し、言葉使い等の検討を行い、顧客の人格を尊重するケアに努めている。	利用者一人ひとりを尊重し、分かりやすい言葉や方法で説明し、言葉遣いや支援が利用者本位となるよう配慮している。プライバシーの確保や尊厳を持った対応などについて研修が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	身につける衣類、食べる物等顧客の意思を確認し、選択してもらう等の支援を心がけている。事業所の活動に強制的に参加してもらうのではなく、顧客の意向を確認して対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の目安としている食事や入浴は時間を顧客に当てはめるのではなく顧客のペースに合わせた対応ができるよう24時間シートにて活用を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	法人内に理美容室が設置されており、気軽に利用できる。顧客の身だしなみに関しては、好みやこだわり等を24時間シートに記載し、自立支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	顧客の状態に合わせて、配膳、片付けを一緒にしている。食事は必ず一緒に味わいながら顧客との関係を作っている。嗜好調査を定期的実施し、思考に沿った物の提供に努め、手作りの食事を提供している。	利用者の嗜好調査から多くのメニューを準備し、献立に反映している。また食べやすく旬の食材も活用し、職員の手作り料理で、家庭的な雰囲気の中、調理の音や色彩等五感に刺激のある楽しい食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の記録と検食簿の情報を献立に活かしている。顧客と一緒に食事をする中で、嗜好や習慣等を把握できている。栄養の偏りを防ぎ、旬の素材を使用するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、顧客の状態に合わせて自立支援を念頭に置きながら口腔ケアを行っている。必要に応じて訪問歯科と調整を図り、口腔ケアの指導及び治療を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	顧客の排泄パターンや習慣に合わせて、排泄介助を行っている。なるべく失禁せずにトイレで排泄できるよう24時間シートを活用し支援している。	一人ひとりの排泄の状態やパターンを24時間シートで分析把握して、出来ることを大切に自立を目指している。パットの活用も、本人の状況に合わせたものとなるよう検討をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促す為に日中に体操や運動、腹部マッサージ、水分補給、牛乳の援助に努めている。排泄状況を記録し、排便間隔を把握する。必要があれば主治医に相談し、指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる準備をしておき、入浴を促しても顧客がその気が無い場合は無理強いをせず顧客の希望に合わせた援助を行っている。また、マンツーマン入浴を行っている。	基本的には週2回の入浴であるが、毎日でも入浴希望があれば対応できる用意をしている。職員と2人になれる場所で、思いを伝えることのできる空間ともなっている。拒否をされる方には、声掛けに工夫をして入りたくなるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	顧客の生活サイクルを把握し、24時間シートにて明確にしている。顧客の状態を見て臥床を促し休息の時間を援助している。就眠状況を記録し、不眠時の対応、日中の対応を検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を受け取った時に薬情報にて薬の目的、副作用等を確認する。薬情報は3ヶ月保管している。顧客の状態の記録を行い、家族や医療機関に情報を提供し、服薬調整に活かしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おやつ作り、裁縫、レクリエーション、散歩、作業療法、生け花等顧客が楽しめ、気分転換が図れるよう支援している。顧客の生活歴等を把握しておく事で、顧客が活躍できる場を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の中で、併設施設の行事参加、併設施設への散歩等を行っている。地域行事への参加も行っている。外出行事は2ヶ月に1回程度あり、外出を行っている。	同じ建物内にある施設へ、行事の参加や掲示物の見学など日常的に出かけている。暖かい玄関前でひなたぼっこをしたり、季節に応じた観光外出も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事時に家族と調整を図り、必要な小遣いを持参し、お金を所持し買物する等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙等が届いた時は理解出来るように話をしたり、それに関わる話を聞いたりしている。電話をかけてほしいとの訴えがあれば電話をかける等の支援をしている。携帯電話を所持している顧客もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な光や音はなく、静かな環境を提供している。環境に関しては、生活環境改善にて毎月チェックを行うことで配慮を行っている。畳の間には冬はこたつを整備し、季節感を取り入れている。	畳の間に寝転んでテレビを見ることが好きな方や、陽だまりのソファでひなたぼっこをする方等ゆったりと過ごせるよう配慮されている。加湿器を有効活用し、感染症対策もされている。花や飾りなどで季節感を表現し、光や温度調節などにも配慮し、心地よい空間を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、ダイニングテーブル、畳の間があり、廊下にはソファや長椅子を設置している。離床後、同じ場所で過ごすのではなく、顧客の好きな場所で過ごせる様配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子・家具・ベッド等の配置は本人の状態に合わせて配置している。寝具類は顧客にとって馴染みの物を持参してもらう。タンスやテレビ、椅子やテーブルなどの持ち込みもあり、顧客が居心地良く過ごせる様努めている。	家族の思いや利用者の思い出のある品を居室に持ちこみ、自分らしい居心地の良い場所となっている。自室でひとりテレビを見て楽しんだり、のんびりと好きなことをして過ごせる工夫がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	顧客の残存機能を活かし、身体機能に合わせた福祉機器を使用している。エレベーターや出入り口には鍵をかけずに、顧客個々の精神的な状態にも配慮しながら対応している。		